

札幌市立常盤小学校の取組

1. 研究のねらい

読書活動を通して豊かな心の育成を図ることが本校のテーマである。日常的に本に触れ合う機会をもつことで、子どもたちが読書に親しみをもち、読書のよりよい習慣を身に付けるとともに、自ら積極的に本を選び、自分の読みたい本の種類の幅を広げていく子どもを育てる。

また、本を読み合う活動を通して、児童相互のコミュニケーション力を高める取組を行いたい。子ども同士の交流を行うことで、なかまづくりを推進し、豊かな心を育てる。

2. 取組内容

(1) 今年度も継続している取組

①朝読書の活動

本校では、朝読書を毎朝始業前に全校一斉で行っている。子どもたちは、自分のお気に入りの本や学級に備え付けの本などを手に取り、決まった時間に自分の席で心を落ち着けながら読書を行っている。時々、開放図書館ボランティアの方や高学年の児童が教室に出向き、読み聞かせを行う活動も行っている。

このように、毎日本に触れることで、読書に親しみ、本に興味をもち、自分が読みたいと思う本の幅を広げている。また、読み聞かせなど読書を仲立ちとしたコミュニケーションを経験させることで、ボランティアの方や異なる学年の児童と触れ合い、心豊かな子どもの育成を図っている。



②読み聞かせ

今年度も本校では、読み聞かせの取組を行った。開放図書館ボランティアによる読み聞かせや教職員による読み聞かせ、委員会活動での児童による読み聞かせである。

開放図書館ボランティアの方には朝の読書の時間に来校していただき、教室で本を読んでもらったり、子どもたちを集めて定期的に読み聞かせ会を開いていただいた。主に開放図書館ボランティアの方々をお願いしての活動であったが、教員による全校読み聞かせ活動も前期・後期に位置付けた。そこでは、教員と一緒にボランティアの方にも参加していただき、子どもたちができるだけたくさんの方と関わることができるような工夫をして活動を組むようにした。



また、委員会活動でも6年生が中心となって、全校の教室に出向いて読み聞かせの活動を行った。この活動は、他学年との交流を深めながらコミュニケーション力を高めていく取組として位置付けた。

③ 寄託図書 of 積極的活用

寄託図書を授業に多く活用し、本に触れる機会を増やした。授業だけではなく、朝の読書の時間などでも活用した。この取組は、読む本の種類の幅を広げていく上で有効な活動となった。



(2) これから力を入れていく取組

① 児童委員会との連携

委員会活動で読み聞かせ活動を企画し、イベントとして行ったが、こうした取組では多くの子が集まるため、異学年交流を充実させることが課題となるため、子どもたち同士のコミュニケーション力をさらに高める工夫をしていきたい。

② 各教科等との連携

特別支援学級では、読んだ物語の情景を想像し、絵に描いて表す取組や、読書や読み聞かせで得た経験を国語の音読や読み取りの学習に生かす取組を行った。このような取組を広め、言語力を高めるような授業の改善に努めたい。

3. 成果と課題

(1) 成果

【朝読書の取組】

全校一斉の朝読書の活動を行うことで、本好きの子どもたちが増えてきた。また、今年度の取組から、読みたい本、資料として必要な情報が含まれている本など、自分が今必要としている本を子ども自身で選ぶ力が身に付いてきた。ほかにも、始業前に静かに教室で過ごすことにより、一日の学校生活を心落ち着けて始められるようになるなどの効果も視られるようになった。今後も、この活動を継続して行いたい。

【読み聞かせ活動】

全校読み聞かせ活動を行うことで、本に親しむ心を育てることができた。また、読書活動と読み聞かせ活動を効果的に組み合わせ、読書や本の楽しさを子どもたちに実感させるとともに、豊かな心情を育てていくことができた。さらに、授業で積極的に読書活動を取り入れることで、心情を込めた音読、相手意識をもった読み聞かせなど、子どもたちの学習面に少しずつ成果が表れてくるようになった。

委員会活動において、読み聞かせ活動を充実させ、子どもたち同士の交流をより深めコミュニケーション力を高めていくことができた。

(2) 課題

児童によっては選ぶ本に偏りがみられる。もっと本の幅を広げるためにはどのような方策が必要なのか、今後検討していく必要がある。